



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

3

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

3

國家圖書館出版社

第三冊目錄

昭和二年（一九二七）旅行日誌（第二十四期生）

小室清志	第四卷第七編		一
渡邊正吾	第四卷第八編		九五
有吉正義	第五卷第一編		二三三
坪根一雄	第五卷第二編		三三三
齊藤久永	第五卷第三編		三八五
高次友恵	第五卷第四編		四四三
木村仁郎	第五卷第五編		五一
長沼重輝	第六卷第一編		五五七
黒川湊	第六卷第二編		六一七

大旅行誌

北史那調平書白誌
小室清志

第四卷

調查旅行日誌

七

五日

行動ヲ指示スルヲ目的トシ断片的ノ嫌ハアラウガ明白ヲ主トスル關係ト日

ヲ連テ日々ノ行事ヲ

細詳ニ記述シ事實ノ有ノ儘ヲ述ベル目的ナル

六日

昨年ノ夏休ミ前カ大騷ヲ演ジテ準備ニ忙殺セシメ大旅行ヲ企テ

六月一日午前九時上海満鉄碼頭カ大連丸ニ搭乗シテ庫島立

午前七時 棧内ヲ出ル際ニハ在棧女子及諸生ノ見送リヲ受ケテ即ニ

出首ヲ親ヲ爆竹ノ聲ノ中ヲ自動車ハ碼頭ニ向テ進ム 一行三人

旅費日約ハ五十日 日指ス個所ハ上海ヲ振出し 青島一濟南一天津一

北京一張家口一大同一歸化城一包頭鎮一龍井一井井一張家口一北京

天津一大連一金州一貔子窩一甘北河一大孤山一龍王廟一北井子一

大東溝一三道浪頭一經テ安東ニ至リ解散ノ豫定ナル 八時頃ホ

大連丸上リ人トタル 丁亥 新半六英國ノ平行母艦カ大ヲ次セテ送リテ

ナル。母艦ノ上甲板ハ船舳ノ滑走場トナリ、其高イニ陸上ノ屋敷等
ヲ遙カサレ。艦尾ノ方ニ乗舟ノ状カニ台設轉ヲ設メニナル。ソレカ艦ヲ繩ヲ
以テ吊サレ、水ニ引下サレヤ馬ヤ恰モ海ノ上ヲ走ル蜻蛉ノ如クニ黃浦江ノ上ヲ
船ノ旨ヲ縫フヲ彼方此方ト奔ケ廻リ、一放音ヲ爆音共ニ疾走ヲ
初メ水ノ上ヲシツキ揚ゲテ滑走スルヨリ、三、四百米、輕ク空中ニ飛リ舞
シ去ル。續イテ又ニ之、都合ニ台昂ビトリ、何レモ黃浦江ノ上ヲ飛返旋回
シ恰モ吾人ノ頭上ニ至リ、更ニ一段ノ高キヲ加ヘテ、汝等南方ニ消ス。

船中ニハ我々旅行隊ヨリタル若生三十名在、外ニ日本人カ約三十名、口シヤ人カ之
又三十名在リ、其他ハ多ク人デ無慮心一面土ハハヲ昇スル。船ノ動搖ハナイケレバ

我々ノ音全身ニ響キ、互リ船ノ上ノ人トナルナシ、氣持カ悪い。船カ黃浦

江ノ口、吳淞ヲ航シ、愈々揚子江ノ水邊ニ出タ頃、一、二口シヤ人ノ十、五、六、

少年カ乗テ、仁丹ヲ請ハスル。ソレヲ縁田ニ色々一、二身ト、ユト等ヲ尋ネルト、

種々、白雲路ノ父ハ、口シヤ革命時戰死シ、母ハ現在芝罘ニ居ルヲ其父ニ

行々所アルト云フ。向テ、ロシヤ人ニ寄リ居ルト婦人丁夫婦者バカリテ窮乏シカラ
私共ノ伴一員ニ入レテ果シル格ニ一の成上テテ其情ヲ語リ出ス。其イテ更レバ同情ニ傳ヒ
ヌルノテサ何物ヲ運ビセ、靴ヲ破テ作リヤルト大喜ビテロシヤ語ヲ教ヘテ見レル。
此方ヲモソノ返報ニモシク電ヲ一紙ヲ教ヘテヤルト、實ニヨリ實ニ、一時ノ返報後
キトシテハ十二分ナル。

六月二日、

午前一時青島入港右岸ニ青島市街ヲ見ル。米國軍艦ガ二艘各潛航艇二隻
突如合工ニ曳引具ニテ破海ニ行ル。其他ノ船舶モ殆ト全部軍艦ノミテ日本
軍艦バカリテ、中ニハ支那ノ北洋艦隊ヲ見エル。又支那南方面ヨリ来リタル船舶
テヤラウト思フガ船舶ハ支那ノ五色旗、船尾ハ青矢白日旗ヲ掲ゲ中立ナル
ストヲ明示シテ碇泊シテキル支那船舶モ見エル。斯ク港内ヲ一巡行シタルミテモ支那
時局ガ北近シ山東ノ急ヲ告ケルモノ正眉ノ目。迫リつツアルヲ見エルトナリ。

大連丸ハ亦ニ棧橋着、上海カス、豫メ、島津村ヨリ甘島屋旅館ニ電報ヲ

通知にてオイテ及イタナ、館主自ら一丁鄭老を迎へ、ワラケ馬車ヲ駈至ノ所屋
ニ向テ、鄭達申市街ヲ眺メ下ヲ行クト金市一大公園ヲ形似シテナル。而テ氣ノ
清キニト、静寂ニシテ上海ノ如キ騒々シサカ果シテコト、實ニ別天地シナル。唯西
洋是ノ家屋カ所留積乙式カ回車式シヤルニホニ何人イナシ不釣合テ一カ玉ニ飛、
日本傳カ通貨ノ大部カ占ムテ半テ而倒ノナキト、電話ヲカケルニ、鈴ノ如ク
直ニ通ルニ女性ノ聲ヲ、聊カカレルニ、實ニ便利シキナリ、爽快至極ナル。
船上ノ病ハ常アリ、將來長途ノ行旅ヲ辱ミ下ヲ就極。

六月三日、

朝五時起床、一日ノ起ルル如キ、昨ノ来ノ日記ヲ書キ、信書ヲ認メル。朝食ヲ了ヘ
ルト直ハ、馬車ニ乗台ヲ駈テ、本島見物ニ出カケル。午前中大体在テ、市街ノ大体
ヲ見テ、如キ、調子ニ乗テ、心穏ナル。最郊ニ至リ島屋半物ノ行方、馬牛
場ハキヤ中ノ作業ヲ終ルニ、特ニ鄭ノ由ニ見物スル。内ガ沙由内ノ氣ニ、待ツト略
好ミシ日本入ノ方ニ、果内ナシテ、接應員ニ通リ茶ヲ啜シ、其送別ヲ受ク。

早々ハ多該當午場ハ元朱独乙人經營テアツタリヲ曰独戰爭ノ結果、大正十一年
 十二月迄ヲ独乙ヨリ讓リ受ケ、日本人ノ官管トスルモ約一年、後一五、多那官
 官トナリ更ニ大正十三年四月四日同五合年事業トシテ官利會社トミタモノナ
 アル。其資本金ハ銀元四十萬元、又日本人持株數四割之步、多那例所有
 額五割四歩トシ、其株式讓渡ハ前記ナルモ日英入官ニハ之ノ不可解ナルカラ
 日本人持株數乃チ多那持株數ハ各、一定シキニ譯セラル。
 而シテ監督官トシテ多那商務局ヨリ四名、日本農林省ヨリ四名ヲ派遣シ
 檢査官トシテ多那ニ付ル。使用人トシテハ日本人僅ニ四名、多那人約三十名ニ過ギテ
 イケレバ、該會社ハ四單ニ屬中者ニ屬殺改備ヲ貸付タル何組ニアツテ一頭
 宛三井ノ機界使用ヲ徵收スルモノナルカ、多數ハノ屬殺ヲス、額若ニ
 付シテハ割引ヲナシ、一平均ニ元ニ相當スル屬殺種ヲ多那ハシタリ中ルトモトシタル。
 一日平均百五十頭ニ屬殺シ、一年平均五、六万頭ヲ算スルカ大正十一年ニ
 最大數ヲ示シ、其數六万五千頭ニ達シテ中ルト。

其他豚、羊子ヲモ多メニ屠殺シ、之ヲ料金モナカズ、更ニ冷乾庫便甲料
及膀胱、毛皮ノ支理等ニ對スル附屬收入アリ、其收差ハ甚大ナル。因ニ一日
五六百頭ノ牛ハ午前中、片付ケルニ出素可勝性ヲ有ルンガアカラ、作業
ハ隨テ午前中ニ限リ、朝共一日の乗込ニ何時ハ九時迄ヤアツタガ作業ハ同
姓サシタハカリノ故ガアツタ。

牛豚肉ノ処分社カラ出ルニハ大抵内地更ニ海向ヲ知テ送ヤリ、内地向トシテ
ハ關門、阪神ニ行クモノが大高分ヲ占メテナル。之ヲ運搬ニ從事スル船舶トシテ
ハ定期船トシ日本郵船、能那丸、大阪商船會社、泰山丸、京田汽船公
社ノ京田丸ノ三艘トシ、毎月二航回ノ定メテナル。其他日不定期船舶トシハ
京田汽船會社ノ東來丸、青島丸、水産、株式會社、信船、海龍丸が毎月
五航回定メテ、由敷運搬甲ニ至ル迄當カレテナル。何モ定金ナル冷乾
乾更ニテ特殊設備ヲ有スル船舶ニテナル。

利子配當ハ年二期ニ分ケ、同業會社ノ最低一家四分ノ配當ヲ與ケ

チ主期取置ニ割ニ名ノ高率ニ達シ、今年ノチ一期取置先七月初旬ニ行ハレルノ
テアルカ三割以上ノ取置ヲ得ル見込アリトモ、隨令ホロヒ儲ケサアル。

牛皮ハ青島ニ製革會社チ、塩漬トシテ主トシ上海及日本ニ輸送セシ
骨類ハソ儘或ハ骨粉トシテ日本内地ニ肥料トシテ輸出セラル。

青島牛ノ屠地ハ山東省ヲ主トシ、其他主トシ陝西ハ甘肅省方面チ
モ出廻リ、悉ク一旦濟南ヲ集中セテ主トシ青島ニ来ルモノナル。

牛肉ハ頭完平吟チ十段ハ外ヲ得ベリ、販賣單位ハ百匁トシニ三年前迄
ハ倍ハモ、百匁十三銭位デアリタモ、昨今チハ十八銭コトシテナルト。

運物トシテ車馬所一棟、屠殺場牛用一棟、豚用一棟、倉庫一棟
(長サ三十匁巾十匁) 冷卻庫一棟、其他冷卻庫用一動力室、試驗室チカ
アル。

皮ノ寄生虫トシテハ豚皮ニハ恐シキハ、鹽毛虫ト有鉤糸虫アリ、牛肉ニハ無鉤
糸虫ヲ主トスル由、試驗室ニ於テ幼虫ヲ出テ寄生虫ヲ抗大ニ見テ取ル。

該會社ノ使用人ハソレノ如ク何人價ヲ由名、市市人三十名ニ過ラザイカ牛豚
所有者ノ但人ハ二使用スルモノ多クモ止リ、之ヲ合スルハ約一千人ニ達スル。彼
等ハ何レモ血ミト口ユナリトテ作業ニ服シテ牛ハ殺ハ全二部高架レールニヨリテ
釣下ケテ運搬サレ倉庫ニ於テ乾燥セシメテ後冷死庫内ニ貯ル。市
價及常給ニ應ジテ賣リ出スベシ、船舶ノ積込ニハ會社ノ直ガ重多ノ海
ヨリサレ、至極便宜ナリ。此處ニ於テ屠マラシムル牛豚ハ概ネ市市人ヲ
所有トシ由社ノ購入仲買ヲ受メハ一五レニ市市人ニ之ヲ賣リ牛豚ノ屠殺前
此ニ見テ市市人曰これヲ賣買スルハ成立シテ市市人並ニ返シシ牛豚
多ク概一ツ百金コシテ碎シ去ル。市内牛乳、肉類等々あり。

膠州海軍觀望台

海軍ヲ觀望スル爲メ大略二アハ青島神社ニ附ケル。時日不足、オオ一大島ヲ
前ニテ探知ラシ直ニ多ク多ク多ク。大島井ノ右手ニハ青島也學校
アリ、生徒約三百名、皆モ休時當ニテ來ル。此ニラシ聲聲ト平地ニ響ク。

氣象台ハ青島市内デハ最高地ヲ占ム。建物は悉ク石造。高さハ約百二十米、海面ヨリ高さニ百米ハ山頂ニアル。青島ニ於テハ獨リ建築トシテハ天文台、福音堂、三井物産多社ヲ有シ居る僅宅ノ三建築物ハ其代表的一モトアル。天文台ハ其建物全部ガ石造ニアリテテラ壞レナイ所。其路長カントトモトシアル。

内前ニハ膠澳商埠觀象台ト肉太ク言ハレタ内橋アリ。玄關ノ入り口不内ヲ乞ヘトモ應答スルモノナリ寂々莫々ナリ。待つコト暫クミテハ日本人ノ紳士某内ニ常ヲトスル。現在此処ノ經營ハ日支合資ナリ然レモ其方某モ從フモノ支兩國人ヨリ形勢ナシ。若三四名先シテトノスト。

オ一ニ實際の右具ニ室ニナル。其見タズノ道具ノ名ヲ參觀順ヲ尋フモノ官中列ヲ示ス。觀具ニ悉スル證明等ハ專内家ニテイナリ及ビモイカヌモノナリアラウナリ。

ハ風速、風向ヲ見ル機械。之ハ天文台ノ頂上風向ヲ不ス矢印ハ風速ヲ不ス車トガアルカ之ニヨリニ觀具ガ動イト見ントアルカヲ観ハ官中ナリ。

② クロノミーター、 恰よ 和共、見えは、十時三十五分ヲ指し、其が之カヲ三十四分五十六秒ヲ除きしテ西暦ノ時刻ヲ算出スルヲアルカ、十時一分四十三秒ル。一同、時計ヲ之ニヨリテ計ス。

③ 風速ノミヲ見ル機械。

④ 晴雨計 (全房性)

⑤ 雷ノ現象ヲ見ル器具、

⑥ 晴雨計 (水銀使用モノ) 之ニヨリテ見ル、氣圧トナスルハ天候ヨリ、低キハ悪イヲ普通トスルモ急激ナル変動ハ何時モ、幸ニ天候ノ陰悪ニ似テ不スエデアル。普通ニハ一日一回上下スルヲ察知トスル。

⑦ 空氣圧降及真空用器具、

⑧ 晴雨計 (動機スルモノアリ)

⑨ 晴雨計 (動機スルモノアリ) 船舶ニテハ普通使用スルモノ

⑩ 經緯度測定器具、之ハ獨ニ日本ニ於テ時正確ニ之ヲ使用スルモノ

(41) 地球磁力測定器

(42) 日食太陽高リテ經緯度ヲ測定スル機械

(43) 金剛性温度計

(44) 普通温度計

(45) 風速(巾) 風速、温度、風向、測定器ニ軍艦ヤ輕気球ニツケルモノ

テ金剛性モノ

(46) 風向測定器(塔ノ中ニアリ)

(47) 日時計(書寫真ニ寫シテ記録スルモノ) 塔ノ頂^{イカリ}キアリ

(48) 風速風向測定器、風速ハ風車廻轉數ニヨリ風向ハ矢印ニヨリ

測定ス

(49) 天文台金條カノ塔ヲ形シ、其ノ高サ前^{イカリ}如ク海拔ニ百米、塔自身ノ

高サ百二十米、都令海拔三百二十米ヲ青島最南莫ニ位置シテナル

ヤ塔上ニ立テ全市ヲ俯瞰スル、全市雙眸ノ中ニ收マル。塔ノ直下ニハ

5. 6.

東亞同文書院調查報告用紙